

はるくま 別冊

福島県災害ボランティアセンター通信

Vol. 9 2011年6月20日発行

●この情報紙について 被災地の復興と被災者の方のサポートを行う災害ボランティアの活動と、今すぐ役立つ情報や取り組みを皆様にお伝えする情報紙です。県内の災害ボランティアセンターなどで配布されます。(週一回程度) ご感想・ご意見は下記宛お寄せください。

発行:社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
福島県災害ボランティアセンター

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111番地

福島県総合社会福祉センター1F

TEL024-522-6540 FAX024-522-6546

<http://www.pref-f-svc.org>



ボランティアレポート1 公益社団法人日本青年会議所 東北地区福島ブロック協議会

元気な福島を全国各地に届けて、
福島のよき理解者を増やしていくことが
僕らの役目



▶福島県内の特産物を販売する
「ふくしまを元気にするプロジェクト」。
各地で開催してきました
(横浜開港バザーにて)



▲被災して活動できない仲間の分も元気な福島を届けます。
東京ブロック協議会、調布青年会議所の皆さんと
(前列右から4番目が坂田会長 調布にて)



▲「元気でよかったわ」
「はい。元気です。これからも福島をよろしくお願いします」

県災害ボランティア連絡協議会の構成メンバーの1つ「公益社団法人日本青年会議所 東北地区福島ブロック協議会」は、全国組織の団体です。「震災直後は、全国の青年会議所から届いた救援物資を、県災害ボランティアセンターと県内の福祉施設とつなぎ救援という形で物資を現場に届ける活動をしました」と坂田敦志会長。その後、風評被害に苦しむ福島県を支援したいと全国の青年会議所から「物産展を開催しないか」という声がかかり、現在は、関東を中心に毎週末、元気な福島を伝える物産展を開催しています。何度も足を運ぶうちに気づいたことは、「テレビや新聞で知る福島と僕らが届ける福島は違うことです。『よかったです皆さん元気で』と声を掛けられとき、元気な生きた福島を届けることこそ僕らの役目だと確信しました。物産展では、お客さまと会話をすることを大切にしています。福島のよき理解者を増やすことで新たな繋がりが生まれます。「被災された方の自立支援は、これからが本番です。まだまだボランティアさんの力が必要です。生きたことばで福島を伝えていくのも僕らの役目。日本中に元気な福島を伝えることが、世界に元気な福島を伝えることになります」。お陰さまで、週末の予定は9月末までいっぱいだそう。「ふくしまを元気にするプロジェクト」の旗を見かけたらぜひ、お出かけください。

ボランティアレポート2

桜の聖母短期大学

～繋がろう～桜色smileプロジェクト

桜の聖母短期大学では、今自分たちにできることを考え、実践していくことで震災後の地域社会に貢献したいと学生有志が「～繋がろう～桜色smileプロジェクト」を立ち上げ、様々な活動を続けています。なかでも「がんばっぺ体操」は、簡単で体が軽くなると訪問する先々で喜ばれています。「ずっと学生たちの活動を見守ってきて感じることは、つながること、身体を動かすことの大切さと楽しさです。短い時間ですが避難されている方と学生と一緒に過ごしているうちにみんなが笑顔になっていくんです。それがとてもうれしいです」と、プロジェクトをまとめる岡田麻紀さん(同短期大学講師)。「がんばっぺ体操」の要請は、いつでも受け付けています。希望される方は同短期大学に電話してください。

TEL: 024-534-7137

▶「がんばっぺ体操」は、「アイーンのポーズ」など分かりやすい4つのポーズの繰り返しなので誰でも簡単に覚えられます



4月30日まで開設されていた
(2011.4.9)

地元応援団紹介

福島交通観光(株)



福島交通観光(株)は、新地町で活動する災害ボランティアバスを運行し、全国各地から福島県の復旧復興の応援に駆けつけてくださる皆さんのサポートをしています。バスの中は、いつもボランティアの皆さんの温かい思いでいっぱい。ある時、活動地区の近所に神社があったことから、未来を祈願しようと参加者全員で参拝に出かけたことがあります。すると地元の方がみて「毎日皆さんの姿を見て立ち上がる力が湧いてきました」と感謝され、心の底から良かっと思われたそうです。「その場に居た皆さん全員が同じ気持ちだったと思います。福島交通グループは、引き続き地元福島県の事業者として復興のための支援を続けて行きます。全国の皆さまのお力を、今しばらくお貸しくださいませ」と、早坂篤さん(福島交通観光)。これからも一緒に元気を届け続けましょう。



▲「私の仕事は、申し込み受け付けはもちろん貸切りバス、お弁当などの手配、当日の添乗員など多岐にわたります」と早坂さん

名鉄観光サービス株式会社

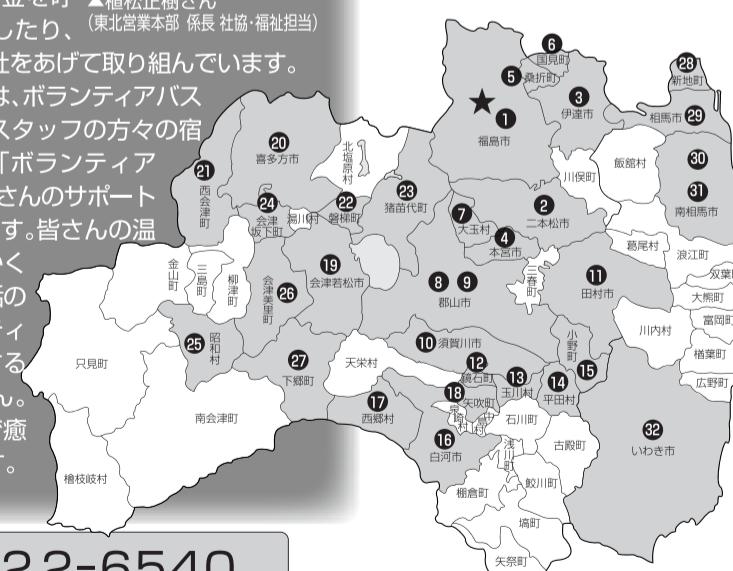


名鉄観光サービス(株)は、全国社会福祉協議会(東京)のビルにも支店があり、全国各地の社会福祉協議会と取り引きがあります。東日本大震災直後から、社員に義援金を呼びかけたり、被災地に入浴バスを出したり、被災者の皆さんのお役に立ちたいと社をあげて取り組んでいます。福島県災害ボランティアセンターでは、ボランティアバスの運行や、全国から支援に来られるスタッフの方々の宿泊や移動の手配を担当しています。「ボランティアバスでは、添乗するコーディネーターさんのサポートも積極的に担っていきたいと思います。皆さんの温かさに触れ、福島県民として、とにかく感謝!の一言です」と、自ら週末は、電話の受付ボランティアにも参加する植松正樹さん。

やさしい声で癒してくれます。

市町村
災害ボランティアセンター
MAP

6月20日現在、32カ所に設置されています。



★福島県災害ボランティアセンター TEL: 024-522-6540

- ① 福島市災害ボランティアセンター
② 二本松市災害ボランティアセンター
③ 伊達市災害ボランティアセンター
④ 本宮市災害ボランティアセンター
⑤ 桑折町災害ボランティアセンター
⑥ 国見町災害ボランティアセンター
⑦ 大玉村災害ボランティアセンター
⑧ 郡山市災害ボランティアセンター

- ⑨ おだがいさまセンター
(ビッグパレットふくしま生活支援ボランティアセンター)
⑩ 須賀川市災害ボランティアセンター
⑪ 田村市災害ボランティアセンター
⑫ 鏡石町災害ボランティアセンター
⑬ 玉川村災害ボランティアセンター
⑭ 平田村災害ボランティアセンター
⑮ 小野町災害ボランティアセンター
⑯ 白河市災害ボランティアセンター

- ⑰ 西郷村災害ボランティアセンター
⑱ 矢吹町災害ボランティアセンター
⑲ 会津若松市災害ボランティアセンター
⑳ 喜多方市災害ボランティアセンター
㉑ 西会津町災害ボランティアセンター
㉒ 磐梯町災害ボランティアセンター
㉓ 猪苗代町災害ボランティアセンター
㉔ 猪苗代町災害ボランティアセンター
㉕ 会津坂下町災害ボランティアセンター

- ㉖ 昭和村災害ボランティアセンター
㉗ 会津美里町災害ボランティアセンター
㉘ 下郷町災害ボランティアセンター
㉙ 新地町災害ボランティアセンター
㉚ 相馬市災害ボランティアセンター
㉛ 南相馬市災害ボランティアセンター(鹿島区)
㉜ いわき市災害救援ボランティアセンター
㉝ いわき市災害ボランティアセンター